

# 観光場面と 〈やさしい日本語〉

一橋大学国際教育センター教授 庵 功雄

[isaoiori@courante.plala.or.jp](mailto:isaoiori@courante.plala.or.jp)

# 1. 〈やさしい日本語〉とは

- ▶ 外国人に対する情報提供
- ▶ 阪神淡路大震災で、日本語も英語もできない外国人が二重に被災
- ▶ →平易な日本語で情報を提供することの重要性
- ▶ →「やさしい日本語」
- ▶ →減災のための「やさしい日本語」

# 1. 〈やさしい日本語〉とは

- ▶ 減災のための「やさしい日本語」
- ▶ →重要だが、定住外国人にとって中心的なのは「平時」
- ▶ →平時における定住外国人に対する情報提供
- ▶ → **〈やさしい日本語〉**（本発表における対象）（庵2016）

# 1. 〈やさしい日本語〉とは

- ▶ 〈やさしい日本語〉の2つの側面（庵2016）
- ▶ 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
  - ▶ →主に、成人の定住外国人のため
- ▶ 2. バイパスとしての〈やさしい日本語〉
  - ▶ →主に、外国にルーツを持つ子どもたちや障害者のため（Ex. ろう児）
- ▶ →本発表では、主に1. を対象とする

# 1. 〈やさしい日本語〉とは

- ▶ **1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉**
- ▶ 3つの特徴
  - ▶ 1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての〈やさしい日本語〉
  - ▶ 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
  - ▶ 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

# 1. 〈やさしい日本語〉とは

- ▶ 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- ▶ 3つの特徴
- ▶ **1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての〈やさしい日本語〉**
- ▶ 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- ▶ 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

# 1.1 初期日本語教育の公的保障の対象としての 〈やさしい日本語〉

- ▶ 日本が公式に定住外国人（移民）を受け入れるようになった場合、重要になるのが「日本語」
- ▶ **初期日本語教育は、公的費用によって、プロの日本語教師が行うべき**
- ▶ →初期日本語教育の内容を決める必要がある
- ▶ →初期日本語教育の公的保障の対象としての〈やさしい日本語〉

# 1. 〈やさしい日本語〉とは

- ▶ 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- ▶ 3つの特徴
  - ▶ 1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての〈やさしい日本語〉
  - ▶ **2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉**
  - ▶ 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉



## 1.2 地域社会の共通言語としての 〈やさしい日本語〉

- ▶ 定住外国人と地域社会の日本人住民との共通言語が必要
- ▶ 可能性1 英語
- ▶ →× 日本語ならわかる：70.8% 英語ならわかる：36.8% (岩田2010)

## 1.2 地域社会の共通言語としての 〈やさしい日本語〉

- ▶ 定住外国人と地域社会の日本人住民との共通言語が必要
- ▶ 可能性2 「普通の」（「調整しない」）日本語
- ▶ →× ここまで日本語ができたなら地域社会に入れてあげる  
（←これまでの日本社会）
- ▶ →「多文化共生」の考え方に反する
- ▶ 例. 「わたち（Cf. わたし）」（タイ語母語話者の日本語）
- ▶ 「シーシーズアシー[ʃi:ʃi:əʃi:]（Cf. She sees a sea.）」  
（日本語母語話者の英語）

## 1.2 地域社会の共通言語としての 〈やさしい日本語〉

- ▶ 定住外国人と地域社会の日本人住民との共通言語が必要
- ▶ 可能性1 英語……×
- ▶ 可能性2 「普通の」（「調整しない」）日本語……×
- ▶ →「論理的に」、地域社会の共通言語は〈やさしい日本語〉でしかあり得ない
- ▶ 可能性3 〈やさしい日本語〉
- ▶ →？

## 1.2 地域社会の共通言語としての 〈やさしい日本語〉

- ▶ 〈やさしい日本語〉が地域社会の共通言語になるとすれば...
- ▶ 日本語母語話者〈受け入れ側の日本人〉
  - ▶ ↓コード（文法、語彙）の制限、日本語から日本語への翻訳
  - ▶ **〈やさしい日本語〉**（地域社会の共通言語）
  - ▶ ↑ミニマムの文法（Step1、2）と語彙の習得
- ▶ 日本語ゼロビギナー〈生活者としての外国人〉
- ▶ →これが実現するか否かは、今後の日本社会の動き（具体的には、「多文化共生」という理念に共感する市民の行動）に懸かっている

# 1. 〈やさしい日本語〉とは

- ▶ 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
- ▶ 3つの特徴
  - ▶ 1. 初期日本語教育の公的保障の対象としての〈やさしい日本語〉
  - ▶ 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
  - ▶ **3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉**

## 1.3 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

- ▶ 学校型日本語教育（大学（院）、日本語学校）
- ▶ 地域型日本語教育（公民館などの日本語教室）
- ▶ 地域型は、教育にかけられる時間やビザの種類など、多くの点で学校型とは異なる
- ▶ →地域型日本語教育のための初級（**地域型初級**）が必要

## 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉

- ▶ 日本語母語話者〈受け入れ側の日本人〉
  - ▶ ↓コード（文法、語彙）の制限、日本語から日本語への翻訳
  - ▶ **〈やさしい日本語〉**（地域社会の共通言語）
  - ▶ ↑ミニマムの文法（Step1、2）と語彙の習得
- ▶ 日本語ゼロビギナー〈生活者としての外国人〉
  - ▶ →この方向に、日本語母語話者のマインドを変えることは重要
  - ▶ →そのためには、**インセンティブが必要**

### 3. 日本語母語話者にとっての〈やさしい日本語〉

- ▶ 日本語母語話者にとって、日本語使用において最も重要なスキル
- ▶ **「自分（だけ）が知っていることを、聞き手に伝えて、聞き手を自分の意見に賛同させる」** こと
- ▶ ・ 学術論文、学会発表（アカデミック場面）
- ▶ ・ 商談、社内のプレゼン（企業場面）
- ▶ ・ 自治会への勧誘、マンションの管理会社との交渉（生活場面）
- ▶ → 〈やさしい日本語〉を通して、「どうすれば、相手に通じるか」を考える
- ▶ → NNSへの話し方（書き方）を工夫することで、自然さ（authenticity）が得られる
- ▶ → 日本語母語話者としてのコミュニケーション力の強化につながる
- ▶ → **「日本語表現の鏡」としての〈やさしい日本語〉**
- ▶ → 〈やさしい日本語〉を普及するためのインセンティブ



## 4. 観光場面と〈やさしい日本語〉

- ▶ 外国人観光客をどのようにもてなすか
- ▶ →「共通言語」を作る
- ▶ →**相手を見て、話し方のストラテジーを変える**
- ▶     ・やさしい英語
- ▶     ・〈やさしい日本語〉（相手が少し日本語が話せるとき）
- ▶ ←「正式なことばづかい」一辺倒から離れることが必要
- ▶ →**正しい話し方は、相手とのやりとりの中で決まる**
- ▶ ←日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉

## 4. 観光場面と〈やさしい日本語〉

- ▶ 外国人観光客をどのようにもてなすか
- ▶ 外国人観光客が「日本語」を使おうとしている...とすれば
- ▶ →「日本語」をサービスの中に入れるのが「おもてなし」につながる
- ▶ →重要なのは、**客のマインドに寄り添う**姿勢

## 4. 観光場面と〈やさしい日本語〉

- ▶ 起こりうる「誤解」
- ▶ 〈やさしい日本語〉が「おもてなし」の手段になり得るのは、
- ▶ 「外国人観光客が「日本語」を使おうとしている」ときに限られる
- ▶ → 〈やさしい日本語〉が観光客を増やすことに直結するわけではない
- ▶ → 「やさしい英語」は、観光資源に直結する可能性が（相対的に）高い
- ▶ → 〈やさしい日本語〉は、「間接的な」観光資源の1つに過ぎない

## 4. 観光場面と〈やさしい日本語〉

- ▶ 〈やさしい日本語〉が観光客を増やすことに直結するわけではない
- ▶ 〈やさしい日本語〉は、「間接的な」観光資源の1つに過ぎない
- ▶ しかし、
- ▶ 「日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉」を通して、日本語母語話者が外国人に、自分の考えを伝えようとするマインドを持つようになる、ことは、
- ▶ **日本語母語話者が外国人に対して持っている心理的な「壁」を低くする効果を持つ**

## 4. 観光場面と〈やさしい日本語〉

- ▶ 観光場面で、言語調整（「やさしい英語」〈やさしい日本語〉）が機能するための前提条件
  - ▶ ・「正式なことばづかい」一辺倒から離れることが必要
  - ▶ ・正しい話し方は、相手とのやりとりの中で決まる
  - ▶ ・重要なのは、客のマインドに寄り添う姿勢
- ▶ +
- ▶ 「日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉」を通して、日本語母語話者が外国人に、自分の考えを伝えようとするマインドを持つようになる、ことは、日本語母語話者が外国人に対して持っている心理的な「壁」を低くする
- ▶ →真の意味の「おもてなし」のマインドが形成される

## 5. 観光場面⇔多文化共生社会

- ▶ 観光場面で、言語調整（「やさしい英語」〈やさしい日本語〉）が機能するための前提条件
  - ▶ ・客のマインドに寄り添う姿勢
  - ▶ +
  - ▶ ・日本語母語話者が外国人に対して持っている心理的な「壁」を低くする
- ▶ →真の意味の「おもてなし」のマインドが形成される
- ▶ →観光場面以外でも重要
- ▶ →観光／外国人誘致をインセンティブとしながら、多文化共生社会への社会的なマインドを作っていく
- ▶ →外国人に対する心理的な「壁」が低くなることが「おもてなし」につながる
- ▶ → 観光場面⇒多文化共生社会
- ▶ 多文化共生社会⇒観光場面

## 6. まとめ

- ▶ 〈やさしい日本語〉（やさしい英語）にとって重要なのは、個々の具体的な表現方法ではなく、**そうした表現を使って、外国人とコミュニケーションを行おうとするマインド**である
- ▶ **観光というインセンティブが高い場面を契機（呼び水）として、通常の接触場面の重要性が／も高まる**
- ▶ 「日本語表現の鏡」がインセンティブとなって、〈やさしい日本語〉が日本各地に普及し、そのことが**観光場面での〈やさしい日本語〉の使用を容易にする**
- ▶ このようにして、**観光場面と「地域社会の共通言語」の側面が接近する**
- ▶ →**共通するマインドが多文化共生社会への土壌を形成する**
- ▶ →**こうした正の循環を作る（作ろうとする）ことが、（遠回りに見えても）最も重要なのではないだろうか**

## 参考文献

- ▶ 庵 功雄（2014）「「やさしい日本語」研究の現状と今後の課題」『一橋日本語教育研究』2、ココ出版
- ▶ 庵 功雄（2015）「やさしい日本語」研究が日本語母語話者にとって持つ意義－「やさしい日本語」は外国人のためだけのものではない－『一橋大学国際教育センター紀要』6、一橋大学
- ▶ **庵 功雄（2016）『やさしい日本語－多文化共生社会へ－』岩波新書**
- ▶ 岩田一成（2010）「言語サービスにおける英語志向－「生活のための日本語：全国調査」結果と広島事例から－」『社会言語科学』13-1、社会言語科学会
- ▶ 野村雅昭・木村義之編（2016）『わかりやすい日本語』くろしお出版



ご清聴ありがとうございました